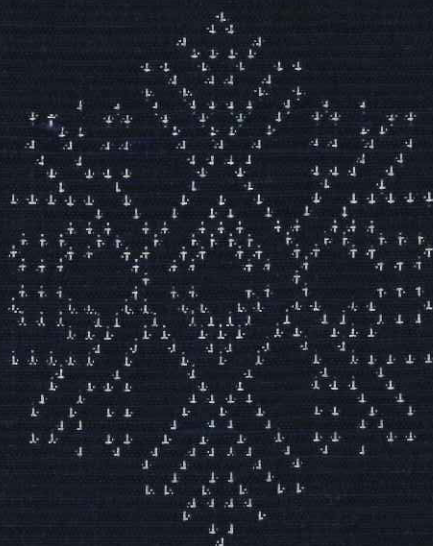


塩澤町史

資料編

下巻



目次

口 絵

発刊のことば……………

塩沢町長 上 田 欽 一

刊行に寄せて……………

塩沢町史編集委員長 細 矢 菊 治

凡例

第五編 近 世 Ⅱ

第一章 近世後期の塩沢…………… 3

第一節 三国街道の交通と流通…………… 4

一 宿継ぎ場としての塩沢村・関村…………… 4

(一) 宿継ぎ場の景観と機能…………… 4

(二) 継立てと付通し…………… 15

(三) 栃窪峠・大沢峠の付越し…………… 23

二 三国峠の通行と米移出…………… 25

(一) 三国峠の通行…………… 25

(二) 上州への売米…………… 32

第二節 魚野川・登川をめぐる生産と生活…………… 38

一 米作農業と水の利用…………… 38

(一) 農業経営・農事暦…………… 38

(二) 用水不足をめぐる問題…………… 52

二 洪水と普請…………… 64

三 米の川船輸送・廻米…………… 76

四 木炉・材木の川流…………… 88

五 川獺…………… 96

第三節 山林資源の利用と維持…………… 99

一	炭焼・山漆……………	99
二	山論・入会山の利用制限……………	108
第四節	加工産業の始まり―酒と縮―……………	139
一	酒造の展開……………	139
(一)	製造と販売の記録……………	139
(二)	酒造株仲間の動向……………	145
二	織物特産物としての縮……………	157
第五節	村の運営と制度……………	183
一	大割元井口氏の役割……………	183
二	村運営をめぐる対立と村決め……………	190
三	蔵組の運営……………	211
第二章	近世塩沢の転機……………	220
	―世相・文化・宗教―……………	220
第一節	社会の混乱とたて直し……………	221
一	塩沢組打ちこわしと地域の困窮……………	221
二	地主の殖産運動……………	243
(一)	石綿・薄荷・鉱業……………	243
(二)	地主の蔵書……………	256
第二節	庶民のくらしと楽しみ……………	261

一	祭り・芝居・風俗・旅……………	261
二	病氣・医療……………	270
第三節	村の宗教……………	278
第三章	幕末の塩沢……………	304
第一節	米生産の村……………	305
一	惣代庄屋の活動……………	305
二	小前百姓にとつての村……………	318
第二節	世情と景気……………	333
一	米と縮の景気……………	333
二	清水峠の開削……………	340
三	地域をめぐる諸騒動……………	359
第六編	近現代……………	
第一章	近代への基礎作り……………	375
一	明治初期の村々……………	377
二	新制度の下で……………	385
(一)	戸籍制度の発足……………	385
(二)	徴兵令……………	387
(三)	地租改正……………	389

四	殖産興業……………	396
三	国民皆学へのスタート……………	398
(一)	学制と文部省年報……………	398
(二)	高まらない就学率と学区取締の苦勞……………	406
四	自由民権運動……………	411
(一)	有志達の活動……………	411
(二)	田村寛一郎と憲法草案……………	412
五	近代化と民衆……………	422
(一)	内国勸業博覧会への出品……………	422
(二)	コレラ騒動……………	423
(三)	村の規約……………	425
第二章	近代化をすすめる人々……………	428
第一節	農山村の生業と地主制の進行……………	428
一	町村制と村の姿……………	430
二	雪・水・泥と闘う……………	445
三	地場産業の形成……………	454
第二節	戦争と教育……………	477
一	塩沢町・上田・中之島・石打村の誕生と各種団体……………	480
二	日清・日露戦争……………	489
三	上越鉄道誘致運動……………	494
四	産業経済……………	505
五	就学率高揚への努力……………	509
(一)	松方デフレと学校資本金……………	509
(二)	勅語と御真影下付……………	512
(三)	就学率高揚への努力……………	513
六	医療と宗教……………	518
第三章	魚沼地方の大正デモクラシー……………	539
第一節	政友会と国民党……………	539
第二節	名望家政治の展開……………	545
一	村会、憲政会か政友会か……………	545
二	県立中学校が欲しい……………	553
第三節	魚沼の交通革命……………	559
一	鉄道景気に沸く……………	560
二	鉄道不協和音……………	564
三	鉄道と麻と糸と……………	566
第四節	雪崩・地震……………	573
一	雪怨……………	573

二	米騒動と関東大震災	575
三	酷雪から克雪へ	579
第五節	大正デモクラシーと新教育思想	582
一	自由・童心教育の展開	582
二	管制化の進む青年会	588
第六節	大正・昭和前期の諸産業と農山村	590
一	地主会と小作	590
二	林野統一事業の終点	597
第七節	女工王国	602
第四章	太平洋戦争と塩沢郷	616
第一節	農本主義の土壌	616
一	農村受難	617
二	昭和九年・十一年の大恐慌	619
三	昭和恐慌と救農土木事業	634
四	農山漁村経済更生運動	636
第二節	土地を農民に	638
一	木崎・王番田に続け	639
二	沃野万里・五族協和のかけ声	652
第三節	学校の兵営化	672

一	逝いて帰らぬ教え子よ	673
二	皇国青年の育成	675
第四節	太平洋戦争と農村	678
一	一銭五厘の命	680
二	草の根のファシズム	691
三	大日本婦人会と翼賛青壮年団	694
四	根こそぎ動員	700
五	戦争協力と宗教	706
六	堅忍持久の限界	708
七	農村が変わる	713
第五章	敗戦と地域の再建	739
第一節	戦後の塩沢	739
一	敗戦時の様子	740
二	物資の不足と食糧確保	752
三	公職追放の解除	756
四	新制中学校の誕生	757
五	社会教育活動	762
第二節	農地改革と供出	764
一	農民の闘いと地主	765

二 農地改革の実態	768
三 供出の様子	772
第六章 町村合併と農山村の変貌	777
第一節 新塩沢町の誕生と産業の変化	777
一 町村合併	778
二 スキー場開発	782
三 土地改良	789
四 しおざわ紬	798
第二節 学校教育と社会教育	801
一 学校の統合	801
二 塩沢商工高校創立	803
三 女性・青年の活動	808
第三節 埋もれた生活からの脱却	813
一 よりよい生活を求めて	814
二 六日町との合併ならず	818
三 偉人を讃えて	825
四 雪と生活	830

第七章 高速交通体系の中で	839
一 高速交通化対策	840
二 関越高速道路とインターチェンジ	842
三 リゾート開発	846
別編 戦没者資料	
執筆者一覧	897
編集作業協力者一覧	898
町史編さん関係者名簿	899

近世II細目次

第一章 近世後期の塩沢

第一節 三国街道の交通と流通

一 宿継ぎ場としての塩沢村・関村

(一) 宿継ぎ場の景観と機能

一 貞享期

塩沢村の陣屋・郷藏の書上げ

4

二 安永四年

塩沢村と千手新田の馬市をめぐる争論(三通)

11

三 正徳二年十月

塩沢村の五軒小路への家作をめぐる争論

14

(二) 継立てと付通し

四 享保二年三月

塩沢村問屋より宿役徴収の願書

15

五 宝暦六年十一月

塩沢村より宿継ぎ場困窮のため拝借米願書

16

六 宝暦四年七月

関村より付通し馬の禁止を求め

16

七 天明六年八月

塩沢組内での付通し馬禁止を求めめる願書

20

八 享和元年七月

付通し馬利用者より口銭支払い免除の願書

21

(三) 栃窪峠・大沢峠の付越し

九 元文五年八月

塩沢村より大沢峠越えの抜荷取締り願書

23

一〇 文政三年三月

塩沢村より栃窪峠越えの抜荷取締り願書

24

二 年不詳

栃窪峠越えの抜荷取締についての触書

24

二 三国峠の通行と米移出

(一) 三国峠の通行

三 文化五年

三国権現の社殿建立にあたっての奉加記録

25

三年不詳

三国峠の雪踏み人足へ出された
賃銭の覚書……………

31

(二) 上州への売米

一四 宝永六年七月

塩沢村より上州出米の付通し停
止願書……………

32

一五 元文四年八月

塩沢組より上州への出米許可を
求める願書……………

32

一六 寛保二年九月

塩沢組より上州出米の付通しを
求める願書……………

33

一七 寛延三年七月

上州への穀留め停止をめぐる取
決書……………

33

一八 明和八年十月

越後米の継送りについて上州永
井村の取決書……………

34

一九 天明元年五月

塩沢村より凶作のため上州出米
の差留め願書……………

35

二〇 天明三年十月

塩沢組穀留のため上州諸村より
米調達願書……………

36

第二節 魚野川・登川をめぐる生産と生活

一 米作農業と水の利用

(一) 農業経営・農事暦

三 元禄五年～天保十三年 中村宮田八郎右衛門家の

種子籾の書上げ帳(抄)……………

38

三 天保十一年

(二) 用水不足をめぐる問題

三 宝永元年～延享二年 芝野新田の開発をめぐる用

水争論(二通)……………

52

二四 文化二年七月

横江用水の分水反対を求める願
書……………

56

二五 文化十四年十月

台風被害により拝借金返済分
納を求める願書……………

58

二六 文政五年十月

登川用水の石留堰設置の取決書
……………

59

二七 天保七年三月

早川蔵組より木炉伐採の制限を
求める願書……………

60

二八 天保十年正月

長崎村の留山による山番請負証
文……………

62

元 嘉永七年五月 雨乞いのため竹俣村・竹俣新

田・片田村の取決書(二通)

62

元 天明二年三月

る争論………
坪池村の魚野川水防林について

8

二 洪水と普請

三 寛政八年四月 仁田川用水の改修について取決

書………

64

元 嘉永元年五月

舞子村と下一日市村の中川用水
境の取決書………

74

三 文化九年九月 君沢村・田中村より魚野川川除

け御普請願書………

65

四 正徳三年

早川蔵組より年貢廻米入用の軽
減を求める願書………

76

三 享保七年六月 鎌倉沢川大破のため村人足によ

る普請願書………

66

四 享保六年四月

塩沢組年貢米の輸送請負証文………

78

三 享保十一年八月 島新田の魚野川川除け御普請の

見積書………

67

四 享保十一年三月

塩沢組年貢江戸廻米の請負につ
いて申上書(二通)………

79

四 安政六年八月 鎌倉沢川の洪水による助郷人足

の願書………

68

四 寛保三年九月

塩沢村と上十日町村の持船取決
書………

80

三 正徳二年八月 洪水による姥島新田移転の取決

書………

69

四 延享三年四月

塩沢村・上十日町村よりの川船
建造の願書………

82

三 享保二十一年正月 大木六新田より魚野川洪水の

救済を求める願書………

70

四 寛政元年六月

廻米を減らし困糶を増やすこと
を求める願書………

83

三 寛延四年九月 関谷新田堰の御普請人足をめぐ

85

三 米の川船輸送・廻米

四七 年不詳

目来田村の江戸・大阪への年貢
米輸送の入用書上……………86

四 木炉・材木の川流

四八 元禄七年九月 清水村・一之沢村・滝谷村での木
炉伐出し制限を求める願書……………88

四九 元禄七年・十一年 滝谷村山の木炉木伐出しをめ
ぐる争論(二通)……………89

五〇 享保六年十月 清水村の木炉木川流しについて
の取決書……………92

五一 享保九年九月 中村の材木筏流しをめぐると決
書(二通)……………93

五二 明和四年十二月 木炉を担保にした借金証文……………94

五三 延享元年十二月 中村の筏河岸へ着けられた材木
目録……………95

五 川獺

五四 延享二年二月 塩沢組の川役・鮭役の書上帳
……………96

五五 安政三年・元治元年 串川普請と鮭獺をめぐると
論の和談書(二通)……………97

第三節 山林資源の利用と維持

一 炭焼・山漆

五六 弘化三年三月 清水村の山桑林覚帳……………99

五七 元禄四年六月 清水村・一之沢村の御用炭請負
の口上書(二通)……………101

五八 享保八年十月 上納蟬実穂の百姓買請け願書
……………103

五九 安永五年五月 関山村三国屋あて蟬の仕切書
……………103

六〇 嘉永四年正月 思川新田での越前漆掻き稼ぎを
めぐる争論……………104

二 山論・入会山の利用制限

六一 正徳三年三月 小黒山の入会山論の裁許状……………108

六二 享保七年十二月 大沢山の入会山論の裁許状……………109

六三 天保四年十月 関山村と関村の飯士山入会争論
の和談書……………111

六四 天保四年八月 大沢村・君沢村による杉植林の
約定書……………113

六五 天保十三年六月 関山村彦右衛門と上野村の入会
……………113

山利用の規定書……………	114	宝曆七年四月	舞子村と関村・姥島新田の入会
享保十七年三月		山論の和談証文……………	130
塩沢村の入会山の利用規制を求 める願書……………	116	享保十四年・二十年	枝吉村と早川村の入会山利 用の取決書（二通）……………
享保十八年十二月		塩沢村の百姓家増加抑制の取 決書……………	117
寛延四年・宝曆五年		竹俣新田と小栗山村の入会 山論（二通）……………	118
延享二年十月		片田村の持山分割についての取 決書……………	119
文政九年二月		吉里村の入会山鎌留め連印帳 ……………	122
宝永二年九月		舞子村山組と下一日市村の飯士 山入会山論の裁許状……………	123
享保十八年八月		五郎丸村・丸池新田と舞子村の 入会山論の和談証文……………	125
元文五年八月		舞子山組と土樽村山組の奥添地 山論の和談証文……………	127
延享三年七月		舞子山組の入会山利用制限の取 決書……………	129
宝曆七年四月		舞子村と関村・姥島新田の入会 山論の和談証文……………	130
享保十四年・二十年		枝吉村と早川村の入会山利 用の取決書（二通）……………	132
宝曆三年六月		滝谷村の山林分割証文……………	133
宝曆十年二月		清水村の雪崩防止による林伐採 禁止の取決書……………	134
安永三年九月		長崎村より萱山の夜刈り人取締 り願書……………	135
安永四年三月		雲洞村の入会山鎌留め証文……………	136
寛政二年十二月		清水村の山手米の年季売渡証文 ……………	137
天保十年正月		長崎村の山番請負証文……………	137
第四節 加工産業の始まりと酒と縮			
一 酒造の展開			
(一) 製造と販売の記録			
元禄三年・十四年		関山村作右衛門家の酒造記録 ……………	139
宝永五年八月		早川村・三郎丸村による稲手酒 ……………	139

禁止の取決書……………	142	決書……………	152
四 明和二年～三年 関山村市郎兵衛家の酒造収支の 書上書……………	142	五 嘉永二年十一月 無株人の酒造差止め願書……………	153
六 文久四年・慶応三年 関村利右衛門の上州への酒 販売手形(二通)……………	143	六 嘉永三年二月 関山村浅右衛門の酒造入株騒動 ……………	155
七 安政四年四月 塩沢村源左衛門による米搗水車 造立入用の返済証文……………	144	二 織物特産物としての縮 六 天和元年二月 天野沢村の白布・縮生産高の書 上げ書……………	157
(二) 酒造株仲間の動向 八 明和二年 魚沼郡外よりの酒移入差止め願 書……………	145	七 元禄二年 天野沢村の白布・縮生産高と青 芋買入高の書上げ書(三通)……………	157
九 明和七年十月 塩沢組内の新酒売出し規制の取 決書……………	146	八 享保九年四月 塩沢村大塚家の縮江戸行商の顧 客名簿……………	160
十 安永四年三月 魚沼郡外よりの酒造株移譲の差 止めを求める願書……………	147	九 享保十年八月 下一日市村より縮行商百姓の行 方について願書……………	163
十一 文化三年十一月 酒勝手造りの停止を求める願書 ……………	148	一〇 享保十年四月 塩沢村の縮買付け人の宿請け証 文……………	164
十二 天保五年九月 酒造株・酒蔵諸道具の売渡し証 文……………	150	一一 元文四年三月 幕府による機道具拵え資金の貸 付け達書……………	165
十三 天保六年十二月 新規酒造人の承認についての取 決……………	150	一二 宝暦期～明和期 塩沢村治左衛門家の詔縮受注 書・納品書(三通)……………	165

二〇三 寛政二年三月	塩沢組より縮市後の役銀納入延期を求める願書……………	167
二〇四 宝暦十四年四月	中村次右衛門家の縮行商株の譲渡し証文……………	169
二〇五 宝暦八年・寛政四年	塩沢村の商人地主鈴木家の成長記録(二点)……………	170
二〇六 寛政六年正月	縮尺幅の改良について通達……………	173
二〇七 天保十一年・十二年	塩沢村扇屋・上十日町村藤士屋の縮販売覚書(四通)……………	173
二〇八 天保十二年九月	塩沢村縮市開催をめぐる妻有十日町村との争論……………	175
二〇九 嘉永七年五月	塩沢組より縮の自由販売を求める願書……………	177
二一〇 安政三年	塩沢組内の染物屋と染布反数……………	179
二一一 安政四年三月	塩沢組諸村による縮自由販売を求める決議書……………	181

第五節 村の運営と制度

一 大割元井口氏の役割

二一二 宝暦五年八月	大割元井口氏の諸役勘定の不正に対する訴状……………	183
二一三 天明二年七月	目来田村の年貢皆済状……………	184
二一四 寛政元年四月	塩沢組の金納年貢調達のため借金証文……………	185
二一五 宝永元年・正徳四年	井口氏による井口新田の経営(一通)……………	186
二一六 享保十五・九年	大割元井口氏による馬喰役・酒役の徴収(三通)……………	188
二一七 寛政五年八月	元大割元井口氏の破産救済のため拝借金願書……………	188
二一八 村運営をめぐる対立と村決め		
二一九 享保九年四月	雲洞村の庄屋役就任をめぐる取決書……………	190
二二〇 文化四年・天保四年	吉里村の村運営をめぐる騒動(二通)……………	191
二二一 寛政五年・天保十年	枝吉村の村運営をめぐる騒動……………	

二三 文化九年三月	竹俣新田の村内取締り取決書	199
三 年不詳・天保二年	五郎丸村の村運営をめぐる騒動(三通)	200
二三 安永六年正月	関村の困窮百姓救済について取決書	202
二三 文化十三年十一月	片田村の儉約についての取決書	203
二三 延享二年・宝暦四年	蟹沢新田の村存続のため救済願書(二通)	204
二六 元文三年二月	栃窪新田より庄屋の不正追及を求める願書	206
二七 寛延四年十月	関村の高辻・諸勘定改めについての連判状	207
二六 享和二年十二月	目来田村の諸役・村入用の書上帳	208
三 蔵組の運営	仙石蔵組より大里郷蔵の引分け	
二六 貞享二年八月		
二三 享保十四年九月	反村を求める願書	211
二三 宝暦九年五月	中野村・中野新田より仙石蔵組分離を求める願書	212
二三 文化十一年九月	吉山新田の仙石蔵組引分けについての請書	212
二三 嘉永五年二月	舞子村ほか五ヶ村の仙石蔵組引分け済口証文	214
二三 嘉永五年九月	仙石村小前百姓より郷蔵運営についての訴状	216
二三 嘉永五年九月	仙石蔵封司役の就任をめぐる口上書	217
二三 宝暦七年十一月	早川蔵の運営についての取決書	218
第二章 近世塩沢の転機	〱世相・文化・宗教	
第一節 社会の混乱とたて直し		
一 塩沢組打ちこわしと地域の困窮		
二三 文化七年	中村宮田家日記にみる塩沢村近在の打ちこわし	221

一七	文化七年八月	塩沢村の米屋・質屋の打ちこわし被害書上(一通)……………	222	一四	文政五年五月	貝瀬家日記にみる長崎村の石綿採掘……………	247
一八	文化十年十一月	塩沢組の組合入用俵約の取決書……………	224	一五	文政五年六月	長崎村の石綿販売をめぐる取決書……………	248
一九	享和三年五月	会津藩役所による入用調達金の借用証文……………	227	一六	文政五年七月	長崎村より火浣布・紙の製法伝授の請書……………	249
二〇	文政七年	鈴木牧之の俵約・勤勉論……………	228	一七	天保五年六月	姥沢新田神字山での銅山稼ぎ反村の訴状……………	250
二一	天保四年正月	塩沢組における移出入金高の書上げ……………	230	一八	天保十二年九月	鉾山試掘について滝谷村と開発主との取決書……………	251
二二	天保六年九月	片田蔵組より凶作のため年貢米金納の願書……………	233	一九	嘉永二年八月	塩沢村孫助の瀬戸物焼出し渡世の許可願書……………	252
二三	天保十二年十一月	塩沢組の俵約取決書……………	234	二〇	年不詳・安政六年	薄荷草を担保にした借金証文(二通)……………	253
二四	天保四年十二月	飢饉救済の包み金についての風聞……………	235	二一	明治二十二年九月	青木源左衛門による薄荷円の製造法(抄出)……………	254
二五	天保九年十月	飢饉の清水村へ向けた救済金品の書上げ……………	236				
二 地主の殖産運動 (一) 石綿・薄荷・鉾業 一六 文政五年・七年 塩沢村喜右衛門による火浣布製 一五 江戸期～明治初期 塩沢村高田屋銀右衛門家の蔵							
(二) 地主の蔵書							

書目録……………

第三節 村の宗教

一 癸 年不詳……………

一七 宝暦十年九月……………

256

第二節 庶民のくらしと楽しみ

舞子村石神大明神別当職争いをめぐる済口証文……………

278

一 祭り・芝居・風俗・旅

一 丑 寛政八年四月……………

一八 天正七年ゝ文久四年……………

261

一 寅 宝暦期ゝ文政期……………

一九 天正四年九月……………

262

一 丑 嘉永二年七月……………

二〇 元禄十六年ゝ慶応二年……………

266

一 卯 嘉永七年七月……………

二一 宝暦六年二月……………

266

一 辰 宝永四年九月……………

宝林寺屋根替かやの留山証文……………

267

反の始末書……………

二二 弘化二年九月……………

268

一 巳 元禄十五年ゝ安永二年……………

神職分家につき一札……………

267

の記録(三通)……………

宝林寺建設の工賃銀の請取証文……………

270

一 午 文政四年七月……………

菩提備金の寄進証文(二通)……………

270

滝谷村貝瀬家日記にみる伊勢参宮下迎祝い……………

遺産相続についての遺言……………

270

二 病氣・医療

一 酉 慶応四年……………

大木六組合村々による御神廻の費用記録……………

270

一 戌 文政四年ゝ安政二年……………

舞子山組による御神廻の取決書……………

276

一 亥 安政六年九月……………

二七 慶応三年八月……………

277

一六 文化十三年～安政二年 姥島新田の御神廻行列記

録…………… 302

第三章 幕末の塩沢

第一節 米生産の村

一 惣代庄屋の活動

一五 天保六年六月 米切手による金子借入れ証文…………… 305

一六 安政三年・四年 惣代庄屋による年貢江戸廻米の請負証文(二通)…………… 305

一七 文久元年五月 惣代庄屋による為替取組み証文…………… 306

一八 安政六年二月 塩沢組内百姓より惣代庄屋入用の削減願書…………… 307

一九 安政四年四月 思川新田高之助による縮売捌方の申上書(二通)…………… 310

二〇 慶応三年四月 塩沢組各村の上州出米取調帳…………… 315

二 小前百姓にとつての村

二一 文化三年 越後男の上州出稼ぎ仕事…………… 318

二二 天保六年七月 塩沢村郷元より年貢不納者教諭の願書…………… 319

二三 天保十三年 上十日町村・仙石村百姓の上州出稼ぎの書上げ(二通)…………… 320

二四 天保二年・安政五年 竹俣新田の庄屋役選出をめぐる取決書(二通)…………… 322

二五 安政二年・六年 片田村の村外流質地の取戻し願書(三通)…………… 323

二六 慶応四年九月 君沢村小前百姓による騒動の詫証文…………… 326

二七 天保元年～明治三十一年 枝吉村の庚申講帳記録(抄出)…………… 327

第二節 世情と景気

一 米と縮の景況

二八 天保八年～文久四年 原沢家日記にみる縮と米の景況(抄出)…………… 333

二九 安政四年二月 塩沢組の産物取調帳(二冊)

二 清水峠の開削

一四 天保十五年・安政六年 清水新道開発の願書（二）

通）……………

一五 嘉永六年 清水新道に伴う米蔵造立願書……………

一六 嘉永六年八月 三国街道宿駅より新道開削に對する申立書……………

……………

一七 嘉永四年十二月 国学者寛水翁による清水新道開削の願書……………

……………

一八 明治九年十二月 新道開削について三ヶ駅の約定書……………

……………

一九 明治十三年三月 三国街道宿駅より土樽越新道の開削願書……………

……………

二〇 明治十九年八月 フランス人ギユスターヴ・グダローの清水新道越え見聞記……………

……………

三 地域をめぐる諸騒動

二一 安政三年七月 関村の宿継ぎ問屋の娘殺傷騒動……………

……………

二二 慶応二年正月 幕府の兵役賦課に對する村の對……………

336

応（二通）……………

362

二三 慶応四年閏四月

戊辰の役における三国峠攻防……………

363

二四 慶応四年

大沢村梅沢家日記にみる戊辰の役の戦況……………

365

二五 慶応四年閏四月

戊辰の役における清水口の防備……………

369

近現代細目次

第一章 近代への基礎作り

一 明治初期の村々

一 明治八年大区会議	377
二 郡区制改定につき早川村と枝吉村の約定書	378
三 明治十三年度前半期吉里村会議案	379
四 新潟新聞に見る塩沢村	383
五 明治初期の村々	384
二 新制度の下で	
（一） 戸籍制度の発足	
六 明治四年片田村戸籍取調帳（抄）	385
（二） 徴兵令	
七 徴兵検査に関する請書（二通）	387
八 明治七年の徴兵籤引の記録（抄）	387
九 養子縁組による免役願	388
一〇 明治廿四年現役猶予願	388

（三） 地租改正

二 地租改正に関わる地主小作約定書	389
三 官山の民有地への組替え再願	390
三 地租改正と入会権	391
四 南魚沼郡高額地価所有者	393
（四） 殖産興業	
一五 上田組縮布検査所規則	396

三 国民皆学へのスタート

（一） 学制と文部省年報

一六 私学設立御届書（抄）	398
一七 塩沢小学校沿革史（抄）	400
一八 文部省年報に見る学制公布直後の塩沢町の小学校	403
（二） 高まらない就学率と学区取締の苦勞	
一九 井口弥右衛門の「勸学日誌」（抄）	406
二〇 兄守教授沿革史及現況（抄）	408
二一 学齡人員就不就学取調帳（抄）	409

三	女子教育ヲ隆盛ニスルノ策(抄)……………	410	三	竹俣村コレラ騒動について嘆願書……………	424
三	明治十五年后期大試験初等科六級生撰題表(抄)……………	410	(三) 村の規約……………		
四	自由民権運動……………		三	明治十九年天野沢村人民申合規約……………	425
(一)	有志達の活動……………		第二章	近代化をすすめる人々……………	
二	平等寺に新聞縦覧所……………	411	第一節	農山村の生業と地主制の進行……………	
三	塩沢町にて政社結成……………	411	一	町村制と村の姿……………	
三	塩沢駅にて有志懇親会……………	411	一	北海道移民……………	430
三	政談演説会は盛会なり……………	412	二	北海道移民……………	431
(二)	田村寛一郎と憲法案……………		三	北越殖民社の移住民……………	432
六	私草大日本帝国憲法案……………	412	四	本郡県外出稼人口……………	432
六	田村寛一郎書簡……………	421	四	町村合併に対し一村独立を求める吉里村……………	433
五	近代化と民衆……………		四	島新田より合併諮詢に対する答申書……………	435
(一)	内国勸業博覧会への出品……………		四	各村より合併あるいは独立の理由書……………	435
三	第一回内国勸業博覧会へ県庁買上にて出品……………	422	四	南魚沼郡十傑撰会……………	441
三	第二回内国勸業博覧会褒章一覽(抄)……………	423	四	大地主の所有地……………	443
三	第三回内国勸業博覧会へ出品……………	423	二	雪・水・泥と闘う……………	
(二)	コレラ騒動……………		四	繰り返される魚野川の決壊……………	445
三	竹俣村コレラ騒動……………	423	四	南魚沼郡各川の水害(公報)……………	447
三	大沢村・樺野沢村コレラ騒動……………	424	四	水難罹災者救助……………	448

四	水害予防費ニ対スル条約書	448
五	復旧工事の再破堤	449
五	南魚沼郡の水害	449
五	水害予防組合の設置	450
五	気候	453
三 地場産業の形成		
五	農会沿革	454
五	南魚沼郡蚕業起源及沿革調査(抄)	456
五	養蚕の状況と種繭	456
五	塩沢町の糸値段	457
五	桑苗値段の暴騰	457
五	本郡蚕種製造額累進	457
六	組合内物産高	457
六	縮布及絹織物商改良組合南魚沼郡部規約	458
六	機械製糸工場	459
六	神字製糸場の職工百余名	460
六	好況の製糸業	460
六	滝川製糸場の旺盛	460
六	栄伸社の製糸	461

六	吉里村々は調査書にみる村のくらし	461
六	部落有林野統一	466
六	民有山林組合	468
七	金融機関の設立	469
七	郡内醸造家	470
七	酒造組合発企認可	473
七	塩沢金沢屋の醸造高(明治期)	474
七	金沢屋酒造場銀釜使用	475
七	本郡家畜頭数	475
七	木炭産額(塩沢町分)	476
七	郡物産額	476
第二節 戦争と教育		
一	塩沢町・上田・中之島・石打村の誕生と各種団体	
八	明治三十四年町村合併郡会と村議会	480
八	新町の名称は塩沢町	480
八	町村合併の諮問	481
八	南魚沼郡の町村合併反対	483
八	町村合併再諮問に対する答申	484
八	規約及団員名簿 君沢青年団(抄)	485

八四	上田村婦人会蘭品評会	485
八五	石打村軍人分会義助会ニ関スル件	486
八六	明治三十九年度塩沢町尚武会事務概況報告	487
八七	会誌 中子夜学会 (抄)	487
八八	日本赤十字社新潟支部南魚沼郡委員部事務成績報告書 (抄)	488
二 日清・日露戦争		
八九	阿部源九郎日誌 (抄)	489
九〇	桑原曹長ノ送別会	491
九一	幻燈会	492
九二	塩沢町出征兵士の家族救助	492
九三	出征兵士家族へ見舞	493
九四	戦争と盆踊り	493
九五	塩沢町の祝捷会	493
九六	軍人家族の内職	493
九七	町村別日露戦役従軍者数 (抄)	494
三 上越鉄道誘致運動		
九八	上越鉄道の実測に付いて	494
九九	上越鉄道の運命	494

一〇〇	上越鉄道と南魚沼郡 (一、四)	495
一〇一	本県会と道路 (鉄道部分抜粋)	498
一〇二	中魚鉄道測量	498
一〇三	上越鉄道懇話会	499
一〇四	上越鉄道問題についての公開状	499
一〇五	上越鉄道問題についての特別広告	501
一〇六	上越鉄道と郡民大会	501
一〇七	上越鉄道と長岡	502
一〇八	渡船の免税願い	502
一〇九	渡船人員調	503
四 産業経済		
一一〇	四十一年二月塩沢町施設に適する農事改良奨励事項	505
一一一	石打村の商・工業の営業別職種	507
五 就学率高揚への努力		
(一)	松方デフレと学校資本金	
一一二	授業料減額の願	509
一一三	財源の確保	509
一一四	塩沢小学校経費表	511

(二) 勅語と御真影下付

二五 阿部源九郎 日誌(抄) 512

二六 御真影と勅語 512

(三) 就学率高揚への努力

二七 学齡届 513

二八 就学猶予願(二通) 513

二九 退学届 514

三〇 就学請書 514

三一 就学猶予願男女別理由別人数表 515

三二 南魚沼郡の就学率 515

三三 ささやかな奨学金 516

三四 一村一校の困難 516

三五 岩之下生徒の枳窪へ教育事務委託許可願 517

三六 特約金支払いをめぐる混乱 517

六 医療と宗教

三七 伝染病患者収容 518

三八 中之島伝染病院改築 518

三九 伝染病患者 518

四〇 各町村医師看護婦数 519

三一 塩沢伝染病院閉鎖 519

三二 本郡伝染病患者(腸チフス) 519

三三 明治四十四年腸チフス月別発生表 520

三四 明治四十四年腸チフス・ジフテリア集計表 522

三五 死亡歴・病類統計 523

三六 卯年御神廻 529

三七 神社統合 531

三八 寺院・仏堂統合 532

三九 六日町新報の発刊 533

四〇 越南新報発行資金の借用 534

四一 其筋へ御注文 535

四二 芝居 535

四三 芝居景物籤引の景況 536

四四 塩沢町の演劇 536

四五 賭場に踏み込まれる 536

四六 初中市と賭博開帳 536

四七 八朔祭りと花火の事 537

第三章 魚沼地方の大正デモクラシー

第一節 政友会と国民党

一四 初期の村議会	539
一四 県議会と郡民の関心	541
一五 塩沢事件	541
一五 県会議員選挙のその後	542

第二節 名望家政治の展開

一 村会、憲政会か政友会か

一五 村議と等級選挙	545
一五 第四百回上田村村議会議録(抄)	546
一五 南魚県議有権者(抄)	548
一五 南魚憲派魚故人追弔会(抄)	548
一五 南魚補欠選挙、民政圧倒の大勝、予想を裏切り約千七百票の大差、政友派多年の金城鉄壁粉碎さる、大衆意外に躍進(抄)	550
一五 塩沢町七日会例会	551
一五 塩沢に於ける尾崎氏の演説聴衆五百余名	551
一五 石打村議 選挙結果	552
一六 学校位置に関し 石打村会答申	552

一六 問題の石打校 無事落着す	553
-----------------	-----

二 県立中学校が欲しい

一六 県立中学校設置期成会経過報告	553
一六 中等学校問題ニ就テ敢テ同情アル各位ニ訴フ	556
一六 中学建設費協議 南魚沼教育財団	558

第三節 魚沼の交通革命

一 鉄道景気に沸く

一六 塩沢の売出し	560
一六 鉄道開通を前に南魚沼の景気祝賀も控目にしたい	560
一六 開通を控えて 南魚の企業熱 将来は工業地にか	561
一六 喜びを感じ岡村翁を偲ぶ 石打村長八木完三	562
一六 上越鉄道の恩人 岡村翁の銅像 石打村で四百円奮発 駅構内に建設す	563
一七 開田事業には 反対どころか大賛成 要は水量の協定 東電の堰止問題に対する中之島村民の意向	563
二 鉄道不協和音	
一七 清水トンネル着手 岩石にて掘鑿困難 鮮人々夫多数入込む	564
一七 朝鮮人労働者への不逞視	564

一三 県道路線確定ニ関スル意見書……………565

三 鉄道と麻と糸と

一四 南魚金融界 目下七尺の積雪、不景気は夫程でない……………566

一五 南魚養蚕同業組合創立總會（抄）……………566

一六 銀行合併に就て魚沼人士に寄す 苗峰散史……………566

一七 塩沢繭市場協議……………567

一八 南魚の片々草（抄・塩沢繭市場） 塩沢支局記者……………567

……………567

一九 越後上布の復興を目がけて 南魚織物同業組合の名称が変る……………567

二〇 南魚の麻織物 売行き好況 尚研究の余地ありとして各地を視察……………568

二一 市場繁昌の養蚕地を一巡（三）需給両者がしっくり団結して経営 桑の立越が多い旧風 南魚沼の巻……………568

（一）

二二 市場繁昌の養蚕地を一巡（四）繭の八割は製糸、上越全通後は大変革を予想さる 南魚沼の巻（二）……………569

二三 越後麻織物 褒賞授与式 取引先を多数招待 併て盛んな求評会……………569

二四 上越線開通と南魚の養蚕 群馬県からの侵略を虞れ 対策を講究……………570

二五 上越線全通の対策出来上る 南魚町村の意気込み 気を揉む塩沢町……………570

二六 越後上布 京阪地方で名声噴々 上越線開通後は 関東へ 塩澤商会の躍進……………570

二七 夏物から冬物へ 交通紀元を機会に 南魚起業家の新計画……………571

二八 三団体協調し 蚕業を刷新南魚沼の申合……………571

第四節 雪崩・地震

一 雪怨

二九 三俣雪崩……………573

三〇 上田村一之沢ノ崩雪……………573

三一 雪途道踏料徴収……………574

三二 県民の生活に及ぼす「雪」が生む負担影響 内務省の通牒に答へた興味ある本県の調査……………574

二 米騒動と関東大震災

三三 大正拾貳年九月五日吉里区京浜地方大震災救護班参加者旅費有志帳……………575

一四	米騒動余波と米価暴騰	576
一五	塩沢の忠魂祭	577
一六	無産党弁士 南魚で気焔 上田村出身の 上村弁 護士が引つれて	578
三	酷雪から克雪へ	
一七	ゲレンデは微笑む準備を整えてスキーヤー歓迎	579
一八	雪もぐら 雪の本場塩沢(上・中・下)	580
第五節	大正デモクラシーと新教育思想	
一	自由・童心教育の展開	
一九	南魚沼小学校長 諮問案答申	582
二〇	春三月・子どもの世界	583
二〇	高等科児童の将来像(昭和三年七月六日現在)	585
二二	児童中心主義と児童詩	587
二	管制化の進む青年会	
二三	南魚青年弁論大会 五日寿座に開催 県青年弁論 大会の出席其他を決定す	588
二四	南魚検丁成績(抄)	589
二五	塩沢青訓生の野営演習	589

第六節	大正・昭和前期の諸産業と農山村	
一	地主会と小作	
二六	大正五年 上田村地主会員名簿(抄)	590
二七	大正十年 小作慣行調査(抄)	592
二	林野統一事業の終点	
二八	南魚林野統一	597
二九	広大なる処女林	598
三〇	上田村林野統一 三千五百町歩	600
三一	部落有林野統一整理協定案	600
三二	国有林野所在町村交付金下渡法制定請願書	602
第七節	女工王国	
三三	激増する女工出稼ぎ	602
三四	南魚の出稼工女組合設置に就いて(抄)	603
三五	新潟県女工保護組合協議会名簿(塩沢町分)	603
三六	投稿 女工の悲しみ	614
第四章	太平洋戦争と塩沢郷	
第一節	農本主義の土壤	
一	農村受難	
三七	南魚農会が悲痛な叫び 農村救済の陳情書を貴族	

院と本省へ提出……………	617
三八 売られ行く女 どれだけあるか 農村不況のバロメーター 県農務課で調査(抄)……………	617
三九 低賃償還は到底不可能 南魚町村長連名で県へ延期を陳情……………	617
三〇 南魚農業の現在及将来(一)(抄) 郡農会長 桑原透……………	618
一……………	618
三二 酒や煙草よりは衛生費が嵩む 之れが退治されれば農村は朗か(抄)……………	618
二 昭和九年・十一年の大恐慌……………	619
三三 第一号 飯米不足状況調 塩沢町大字吉里……………	619
三三 雪害冷害疲労困憊……………	620
三四 鉤持勝治郎日記……………	627
三 昭和恐慌と救農土木事業……………	634
三五 上田地区救農土木事業……………	634
三六 八竜橋の架設問題 一頓挫を来す……………	635
三七 さアさ 雪消え 魚沼復旧工事着手……………	635

四 農山漁村経済更生運動……………	636
三八 農山漁村経済更生指定村・上田村……………	636
三九 更生委員会 上田村で開く……………	636
三〇 我家の借金 斯くの如し 麗々しく揭示、経済更生にいそしむ南魚上田村異風景……………	637
三一 おらが村の青年道場 南魚上田村で落成式……………	637
三三 更正目標を貯蓄心に置く南魚中之島村……………	637
第二節 土地を農民に……………	637
一 木崎、王番田に続け……………	639
三三 暗雲低迷決裂で小作不納開始……………	639
三四 地主・西脇清三郎宛小作人の願書……………	639
三五 医療組合 塩沢に組織 五百余名参加模様……………	643
三六 南魚水害地小作人諸君……………	643
三七 石打村小作減免要求協議……………	644
三八 石打小作争議 解決模様……………	644
三九 不合理な「刈」制度に 南魚農民起つ 全、北農合 体で改革運動(抄)……………	645
四〇 農作予想の立毛 調整したら三割減 南魚の地主 小作呆然(抄)……………	646

二四	各農民組合同 地主に一大要求南魚に一波瀾起 きるか……………	646
二四	地主側の争議対策……………	647
二	沃野万里・五族協和のかけ声	
二三	満州農業移民に関する件……………	652
二四	土の小戦士募集 県下十六ヶ所で打合せ……………	653
二五	満蒙農業開拓団名簿（塩沢町分）……………	653
二六	もつと出せ、出せ 青少年義勇軍 まだ百廿余名 不足……………	656
二七	回想の満蒙開拓青少年義勇軍―関口謙治氏に聞く―……………	656
第三節	学校の兵営化	
一	逝いて帰らぬ教え子よ	
二六	使命自覚 石打小学校長 古沢房治……………	673
二四	ユキノシンゲン……………	674
二五	職場の豆戦士 南魚から千二百名、六日町で壮行会……………	674
二五	赤芋麻とドングリ採取 上田第一校優績……………	675
二	皇国青年の育成	
二三	君沢青年会報告書（抄）……………	675
二三	各位に感謝す 石打青年団長 土田覚常……………	676
二五	疎開受け入れ県費補助の件……………	677
第四節	太平洋戦争と農村	
一	一銭五厘の命	
二五	昭和十七年度徴兵検査（石打村）……………	680
二六	秘 昭和十八年度海軍志願兵徴募状況調（抄）……………	680
二五	海軍志願兵志願書……………	681
二六	徴集延期の道……………	681
二五	近づくよ！国防危険戦、用意せよ医師も毒ガスの 研究、南魚沼医師会全国に率先して起つ、近く塩沢 町に大会……………	682
二六	軍事便 輜重兵関光義の前線たより……………	683
二六	関光義 軍隊手帳軍歴……………	687
二六	関光義「日支戦争従軍戦陣抄」……………	689
二	草の根のファシズム	
二六	国民精神総動員新年奉祝（抄）……………	691
二六	漢口攻略の報に接して……………	692
二五	銅銭を献納……………	692
二六	回覧板と隣組……………	693

三 大日本婦人会と翼賛青壮年団

二七 国婦南魚支部結成	694
二六 団旗樹立式 中島村国婦会	694
二九 南魚日婦支部発会式	695
二〇 昭和二年 議事録 君沢青年会 第貳拾六号(抄)	695
二二 南魚中之島青年の決議	696
二三 緑の団服を制定し 非常時に拍車 中ノ島(南魚)	696
青年の演習	696
二三 中之島青年会 各種の催し 春季総会に続いて	697
二四 “時局”を青年に 夏季講演会 南魚石打村青年団	697
二五 析窪青年会「日記」(抄)	698
二六 “われらの空は―我等で護れ” 南魚の防空献金熱	699
二七 漢口陥落を記念 長期建設を誓ふ 中野島国婦更 に前進	699
二八 日婦郡支部で服装の申合せ	700
四 根こそぎ動員	700
二九 軍需野菜野沢蕪菁供出割当表(抄)	700

二八 軍用乾草供出	701
二九 慰問品寄付ニ関スル件	701
二三(秘)昭和十七年度指定施設並非指定施設及一般家 庭特別回収実数量(十一月二十六日現在)(抄)	702
二三 戦時国債消化に関する件	702
二四 昭和十七年度 石打村戦時物品配給通知	703
二五 配給二例	703
二六 勤労働員	704
二七 衣食不足すると礼節は	705
五 戦争協力と宗教	705
二八 雲洞庵青年僧侶 本社を経て百円献金	706
二九 待った! 梵鐘供出 寺院へ標準を示す	706
二九 大日本神祇会飛行機献納運動	707
二九 寇敵撃攘祈願執行	707
六 堅忍持久の限界	707
二九 銃後産業振興会 南魚石打村に生る	708
二九 石打村の戦時体制(抄) 昭和十四年	709
二四 南魚石打常会	710
二五 弟の村葬を前に 兄も無言の凱旋 南魚に中支散	710

華の二勇士

- 二六 一門三勇士戦傷 石打村に譽れの家庭……………710
 二七 上田罹災部落 救助金交付を申請……………712
 二八 遠ざかる青果物 南魚地方にも機構の不備……………712
 二九 播種前と云ふに種子が来ない 魚沼地方と紫雲英……………712
 三〇 南魚桑園 約三割胴枯病 養蚕家は大恐慌……………712
 七 農村が変わる

- 三〇一 南魚農村は工場設置歓迎 上田村で六ヶ所設ける……………713
 三〇二 南魚の出稼ぎ 二千人に及ぶ……………713
 三〇三 南魚へ転げ込む三十五、六万円 糸取娘帰郷迫る……………714
 三〇四 昭和十六年度石打村出稼ぎ状況……………714
 三〇五 木炭生産減に此の理由あり 死物狂ひに働いても免れぬ損 南魚組合陳情員挙ぐ……………714
 三〇六 挙国一致体制下の協調努力の虚像……………717
 三〇七 戦時下企業合同政策と上田村の製糸業……………719
 三〇八 野上守一郎「中之島村役場日誌」(抄)……………721
 三〇九 豊島勝一郎「店卸表」メモ……………735
 三〇 ある従軍兵士の懺悔……………738

第五章 敗戦と地域の再建

第一節 戦後の塩沢

一 敗戦時の様子

- 三一 敗戦時の状況……………740
 三二 食料不足の実情……………741
 三三 武器引渡し命令……………742
 三四 進駐軍の視察……………743
 三五 集団疎開御礼映画会……………744
 三六 バー・モウ博士の山寺生活……………745
 三七 バー・モウ長官の薬照寺隠棲生活……………746
 二 物資の不足と食糧確保

- 三八 菓子の配給……………752
 三九 衣料品の配給……………752
 四〇 アルミ製品還元配給二関スル件……………753
 四一 畑作荒らしの防止……………753
 四二 未利用資源の利用……………754
 四三 食糧管理法違反事件(中之島村)押収書……………755
 三 公職追放の解除……………756

証明書……………756

三五	上申書	757	三八	清酒特配	775
四	新制中学校の誕生		三九	供米報奨物資	775
三六	塩沢町新制中学校新築工事報告(二十二年度分)	757	四〇	配給停止措置	776
三七	新校舎設立概要	759	第六章	町村合併と農山村の変貌	
五	社会教育活動		第一節	新塩沢町の誕生と産業の変化	
三六	石打公民館の活動	762	一	町村合併	
三九	中之島村で社教大会	763	三一	お願いと意見交換	778
第二節	農地改革と供出		三二	塩沢合併派のピラ	779
一	農民の闘いと地主		三三	六日町合併派のピラ	779
三〇	小作料納入委員会の結成	765	三四	中之島村・塩沢町の合併決議	780
三一	小作調停事件	766	三五	深夜の議会	781
二	農地改革の実態		二	スキー場開発	
三三	農地改革推進講習会	768	三六	スキー場名不当使用是正の請願	782
三三	石打村農地委員会の実績	769	三七	上越沿線随一のスキー場に	784
三四	塩沢町農民大会案内 檄文	771	三八	スキー特急ようこそ	785
三	供出の様子		三九	塩沢町スキー場入り込み客数	786
三五	供米促進懇談会	772	三	土地改良	
三六	供米完納協議会通知	774	四〇	土地改良区設立に関する報告書	789
三七	供米成績表	774	四一	県営総合土地改良事業について	791

三三	上田地区、中之島県営土地改良の側面	794
三三	土改に地元民不安／現状では適期田植え不可能	796
四	しおざわ紬	
三五	臨時総会議事録	798
三五	塩沢紬の伝統工芸品の指定について	799
三五	国の伝統工芸に指定	800
第二節	学校教育と社会教育	
一	学校の統合	
三七	教育問題審議委員会の答申	801
三五	中学校統合に関する経過と今後の方針	802
二	塩沢商工高校創立	
三五	商業課程開設請願	803
三六	県立塩沢工業高校建設促進期成同盟会設立趣意書	804
三一	塩沢商工高校設置について	807
三六	地元負担	807
三	女性・青年の活動	
三六	生活改善は台所から	808
三六	婚礼の合理化	809
三六	芝居の御案内	810

三六	青年団連絡協議会主催立会討論会	811
三七	青年の日スタート	811
第三節	埋もれた生活からの脱却	
一	よりよい生活を求めて	
三六	電燈施設補助金交付についての副申書	814
三六	新町給与所得者協議会の結成	815
三七	塩沢合同労組の結成	815
三七	塩沢町商工会創立総会議事録(抄)	817
二	六日町との合併ならず	
三七	合併協議委員会最終報告書(抄)	818
三七	陳情書	819
三六	六日町・塩沢町合併に関する要望書	820
三五	合併協議会の解散	822
三	偉人を讀んで	
三七	鈴木牧之顕彰会並に百二十年祭に関する経過報告	825
三七	岡村貢翁銅像再建に際して	828
四	雪と生活	
三七	暖冬異変災害救済対策について	830
三七	異常少雪による不況対策とスキー観光産業の発	

展に関する意見書の提出について	832
三六 異常豪雪対策	834
三六 豪雪の被害から県民生活の安定を確保し、自治体及び、県民負担の軽減を求める意見書の提出について	836
第七章 高速交通体系の中で	
一 高速交通化対策	
三六 塩沢町高速交通化対策協議会設立	840
三六 湯沢に町営駐車場	840
二 関越高速道路とインターチェンジ	
三六 関越自動車道インターチェンジの設置に関する要望決議	842
三六 通過反対の請願（中之島地区）	842
三六 再びインター設置の要望	843
三六 「大字石打」に	846
三 リゾート開発	
三六 塩沢町におけるリゾートマンションの現状・問題点・対応について	846
三六 土地利用の状況等	850